

岡山県学生献血推進連盟 コロナ禍における “S.B.D.Momo”の取り組み



岡部 夢花/ノートルダム清心女子大学
岡山県学生献血推進連盟“S.B.D.Momo”

はじめに-学生ボランティアの歴史

全国の動き		岡山県の動き
1960年	青少年赤十字が献血の呼びかけ	
1962年	「日本赤十字献血学生連盟」結成	
1966年	全国統一大会	全国統一大会に参加
1985年	全国学生献血推進リーダー研修会	
1988年	全国学生クリスマス献血キャンペーン	「岡山県学生献血推進連盟」発足 全国学生クリスマス献血キャンペーン 実施
2000年		中国四国学生統一献血キャンペーン 実施
2001年	全国学生・献血推進団体との 交流研修会	岡山県学生献血推進連盟 “S.B.D.Momo”へ名称変更
2002年	「全国学生献血推進実行委員会」発足	
2005年	全国学生献血推進協議会代表者会議 開催	
2006年	全国学生献血推進実行委員会 規約施行	
2012年		キッズ献血を実施
2014年		Let's Try MOGI献血を実施

S.B.D.Momoの目的

日本の血液事業は、毎日約13,000人もの献血者に支えられている。

近年の少子高齢化の影響により、輸血を必要とする高齢者は増加しているが、若年層の献血者は減少している。

そのため、血液事業における最重要課題として〈若年層献血推進〉が挙げられる。

私たち学生ボランティアは、若年層を中心に〈新規・複数回献血者〉確保のため活動している。

新型コロナが献血にもたらした影響

2020年2月 イベントの中止・延期要請

2020年3月 キッズ献血の中止

2020年4月 緊急事態宣言 発出

↓
学校からサークル活動の休止



献血を終えた男性に職員がカーネーションを贈った=8日、岡山市北区いずみ町

4月巡回バス 35力所以上中止
輸血用血液の在庫が急減している、新型コロナウイルスの影響で、企業や大学など献血バスの派先が普通が相次いだ。献血は政府針で進まず、事業はこれ、不変不急の出にあらぬ、県赤十字血液センターは「命を守るため緊急対応」を呼びかけている。

自粛長期化 献血にも影響

「母の日」を前にした8日、岡山市北区の献血ルーム（Lルーム）では、献血者をつたえたいが、カーネーションが1人たりかたがたなくなっていた。先週は「お祝い」だった。岡山の指圧師協会の知政さん（81）は、週間に1回のペースで成分献血に来ている「緊急事態宣言」で、多くの人が自粛を要するほどだ。岡山中津地区は4月下旬、県赤十字血液センターの献血バスを呼び入れた。通常は開館を半年ほど遅けるが、このときは約3カ月、職員4人が協力した。和井勇樹（28）は「（Lルームの）呼びかけが必要。最大限開館すると願った。センターによらず、県内で必要な輸血量は1日2400人分（1人あたり400ミリットル）。3月以降、献血が計画量を下回ることが続いた。血液不足を受け、センターは過去の献血者にも電話やメールで努力を呼びかけ、その結果、県内2カ所の献血ルームでは計画量を超える献血が再び集まるようになった。だが、県内の輸血用血液の

不要不急あたらず「今こそ協力を」

新型コロナウイルスの感染拡大で国が緊急事態宣言を出した4月、日本赤十字社が広く実施している400^{cc}の献血に協力した人が40都道府県で、血液製剤の需要予測を基にした計画人数を下回ったことが2日、分かった。外出を自粛する人が増え、企業も集団献血を控えたことが背景にあり、東京都の達成率は74.4%と最低だった。

コロナ再拡大 献血低迷懸念

4月の献血達成率 (400ミリットル)

①橋本	110.1%	⑧福井	81.5
②山口	109.0	⑨愛知	81.1
③鹿児島	103.6	⑩香川	80.6
④大分	102.3	⑪千葉	79.6
⑤三重	101.4	⑫東京	74.4
⑥	...	⑬	...
⑦	...	⑭	...

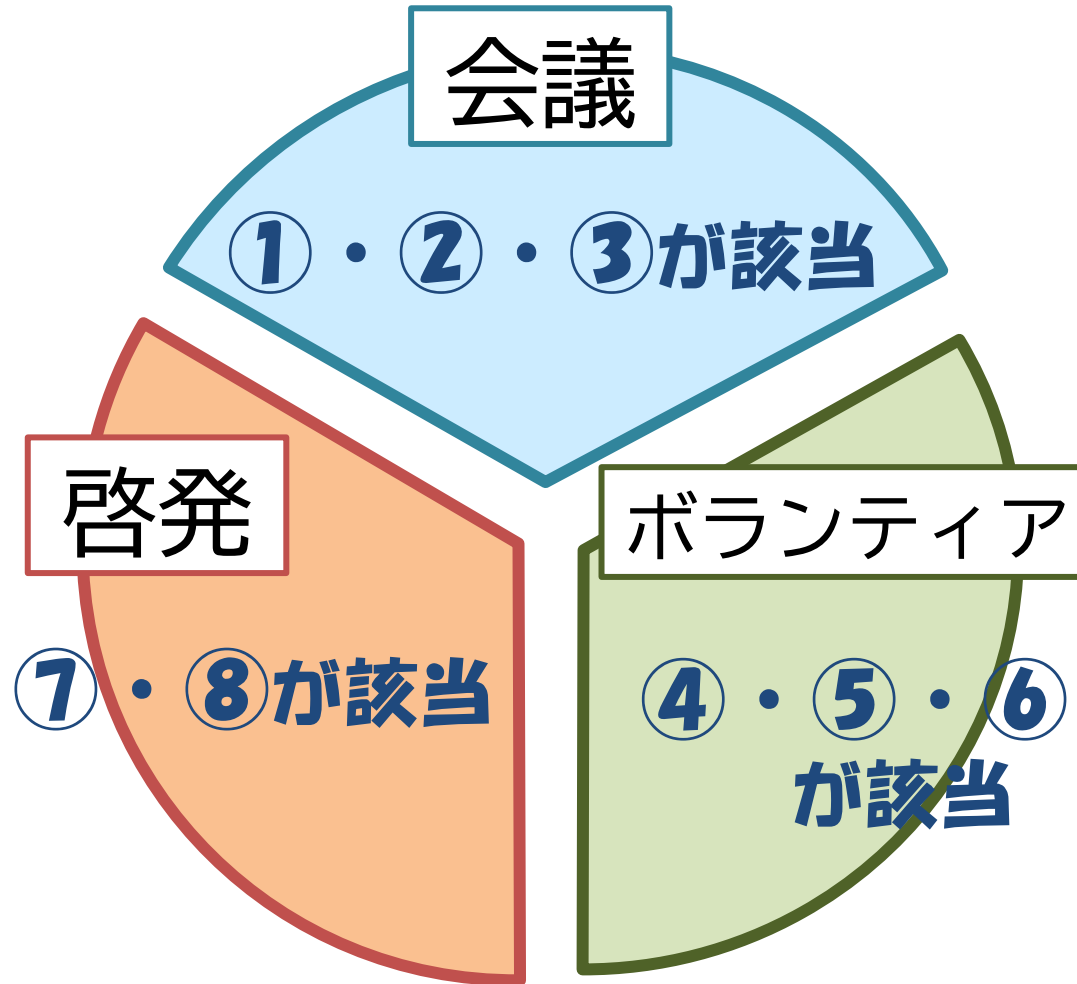
日赤は4月の結果について「10数年で計画人数に支障はない」としているが、感染再拡大で献血者が再び減るおそれがあるとして努力を呼び掛ける。日赤は各月の実行計画を約2〜3カ月前に作成。専用バスを使うなどして広く行われる「全血献血」のうち、需要の高い400^{cc}の献血の計画人数と献血者の1〜5月の状況を、共同通信が各地の日赤の関係機関に取材した。1月は計画で計画人数と同数または超過したが、日赤は感染再拡大の傾向を踏まえ、会場制交流サイト（S

宣言下の4月、40都道府県で計画下

従来の活動内容

【1年間の活動内容】

- ①定例会
- ②研修会
- ③代表者会議(県外)
- ④献血キャンペーン
- ⑤学内献血
- ⑥街頭献血
- ⑦広報活動
- ⑧模擬献血イベント



S.B.D.Momo活動実績

年	2017	2018	2019	2020
会議(回)	14	14	12	7
献血(回)	5	5	5	1
啓発活動(回)	9	7	6	1
加盟者合計(人)	243	240	241	218

S.B.D.Momoの挑戦

-私たちは、何が出来る？

緊急事態宣言下でも
献血は必要です



他に代わるもののない輸血医療に使用される輸血用血液を
日々安定的に患者さんへお届けする必要があることから、

**献血へのご協力は
不要不急の外出にはあたりません。**

出来ないことの多い中で《学生でも出来ること》
《ボランティアで出来ること》を探す
…2020年度、コロナ禍でのS.B.D.Momoの課題

《啓発》新しい試み①

Goto献血キャンペーン

【目的】

ソーシャルディスタンスを保ち、献血の啓発と宣伝

【内容】

8/21〈献血の日〉に協力された方へ、
学生がデザインした
缶バッジをプレゼント



○SNSで制作過程を報告
デザイン案の選出を呼びかけ



アマビエと献血キャラの缶バッジ 21日、協力者にプレゼント

スクール&キャンパス

地域話題

岡山市

シェア ツイート

岡山県内の大学生や専門学校生らでつくる県学生献血推進連盟は、疫病退散に御利益があるという妖怪「アマビエ」と献血推進キャラクター「けんけつちゃん」をデザインした缶バッジを作った。県赤十字血液センター（岡山市北区いずみ町）が「献血の日」の21日、献血した先着300人にプレゼントする。

缶バッジ（直径約5・5センチ）は、新型コロナウイルスの収束と献血者の増加を願い、同センターの協力を得て作製。デザインは同連盟副代表のノートルダム清心女子大2年岡部夢花さん（19）が担当し、赤い縁取りの中心にアマビエとけんけつちゃんをかわいらしく描いた。



県学生献血推進連盟が作った缶バッジを持つ副代表の岡部さん



若者の献血普及推進

県内大学生ら缶バッジ製作

県赤十字血液センターは「献血の日」の21日、県内の大学生らが製作した献血推進キャラクター「けんけつちゃん」と、疫病を鎮めるとされる妖怪「アマビエ」が描かれた缶バッジをプレゼントする記念イベントを実施する。

県学生献血推進連盟は「県学生献血推進連盟」。若者への献血の普及啓発を行う学生団体で、献血会場での呼び込み活動などをしており、県内の大学生や専門学校生ら約200人が所属する。新型コロナウイルスの影響で思うように活動ができ

ない中で、「何かできることはないか」とこの企画を発案した。イラストはメンバーから案

(有)ラインパッケージ

〒701-4276
瀬戸内市長船町服部 667-1
TEL.0869-26-4155

先着で配布



用意した。岡山市北区いずみ町の献血ルームうららみで投票を実施し、約450個の献血バスなどで献血した人に、先着で

配布する。同連盟代表で岡山理大3年の津崎巨陽さんは「献血は人の命を助けることができる一番身近な活動。このイベントをきっかけに献血会場に来ていただければ」と協力を呼び掛けている。
【岩本一希】

○TVや新聞などメディアに
《コロナ禍でも出来るボランティア》と宣伝・啓発

《啓発》新しい試み②

はたちの献血キャンペーン

【目的】

若年層の献血参加意識の向上
若年層の献血者を可視化



【内容】

SNS (Twitter、Instagram) で10代・20代に
献血に関する投稿を呼びかける



《献血ボランティア》

-クリスマス献血キャンペーン

春

晴れの国献血キャンペーン



→緊急事態宣言発出後 中止



夏

中国四国学生統一献血キャンペーン



→感染拡大のため中止

秋

わくわく献血キャンペーン



→学校側の要望により中止

冬

全国学生クリスマス献血キャンペーン



→イオンモール津山にて実施

【目的】

冬場の献血者増加及び
献血運動の一層の推進。

【内容】

- 献血協力への呼びかけ
- 献血者の誘導など



課題

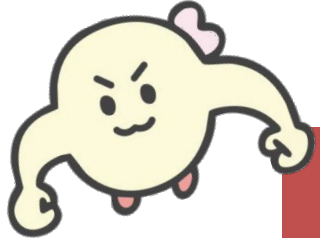
1

献血への知識・意識向上

2

情報発信の強化

S.B.D.Momoの今後



①献血への知識・意識向上

- 定期的に勉強会を行い献血の知識をつける
- 「若者から若者へ」の意識づくり

②情報発信の強化

- SNS更新頻度を上げる
- 報道機関へのPR



ご清聴ありがとうございました



輸血を待っている患者さんのために頑張ります！